



アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソッコ(=お便り)形式のエッセイです。



今月のテーマ

ポンレ(あだ名)

本田優子(札幌大学教授)



この春、我が札幌大学ウレシパククラブでは全員
のアイヌ語を決めました。ポンレポンレ小さい、レ

「名前。つまり「あだ名」のこと。でも「ツクネーム」と言
う方がしっくりくるかもしれないね。ウポポイのスタッ
フの方々もポンレと呼び合っているのを見習い、私たち
もまずはそこから日常の中にアイヌ語を取り入れよう、
と「いっしょ」なっています。

かつてのアイヌ社会では、子
どもの個性が表れる頃に名前
がつけられ、親の願いを込めた
名前はもちろんのこと、その子
の特徴をよく表したり、その子
の人生に決定的な影響を与え
たエピソードに基づいて名付け
られたとのこと。ウレシパクラ
ブでもみんなで一人ひとりの特
徴を考えたりこれまでの体験
を聞いたりして、その人にぴっ
たりなポンレを考えました。

クスクス笑うのが可愛い女子は、アイヌ語でクスクス
笑いを意味するピトウトウンケさん。声が良く雄弁に
なりたいたい男子はレカシカイ(さえずり上手)君。傑作な
のは、小さい頃、お父さんを川に沈めてしまったという
エピソードの持ち主ミチレンカ(父を沈めた)君。
かくいう私は二十年ほど前からポンレを持っていた



イラスト/ 莊田悠人

のです。アイヌ語指導者育成合宿で、勉強の環として
みんなのポンレを考えただけど、千葉大学のなかかわひろし中川裕
先生がアチャライケというポンレを提案してくださっ
た。アチャライケおじさん、ライケ殺す。つまりおやじキ
ラー(笑)。でも私は言ったのです。「ライケは、殺すこ
う動詞の単数形。一人くらい殺したってつまんないか
ら、ごっそり殺す」という意味の

複数形「ライケ」を
使いたい」。め
でたく私のポンレは「アチャロ
ン又」。今は見る影もないけど、
ちょっとはイケてた時代の栄光
のポンレ!今、学生たちにはア
チャロン又フチ(おばあさん)と
呼んでもらっています(笑)。

実はかつてのアイヌ社会で
は、本名はカムイとの関わりで
決められた重要なものなので、
みだりに使わず、普段の生活で
はもっぱらポンレと呼び合っ

いたといわれます。これはアイヌに限らず世界の多く
の民族に見られ、先住民族の世界観を投影しているこ
いわれるファンタジーの傑作『ゲド戦記』の主人公も、
普段の名前はハイタカ。ゲドは真まことの名。ポンレも大切
だけど、単なる本名とは違う意味合いの「真の名」:
とても心惹かれます。



次回のテーマは「コンプ/サシ」
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)
が担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレツポン」



イランカラプテ
「こんには」からはじめる。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■莊田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。